



イエス団報

Jesus band news

2011/12/24

14

再刊 14 号

- 黒田道郎理事長就任のご挨拶
- イエス団東日本大震災救援対策本部「クリスマスに添えて」
常務理事 平田 義
- 研修報告
 - 新任職員研修会
 - ブラッシュアップ研修会
 - リーダーシップ養成研修会
 - 1 泊施設長研修会
 - 光の子保育園公開保育研修会
- イエス団の輪っ
 - 水野 雄二さん
 - 高橋 成就さん
- 施設紹介
 - 天使虹の園
 - 馬見労働保育園
- J.B.Fellows 活動報告
 - 大阪ブロック
 - 京都ブロック
 - 兵庫ブロック

発行：2011 年 12 月 24 日

発行者：黒田 道郎

編集・発行：

社会福祉法人・学校法人 イエス団

〒651-0076

兵庫県神戸市中央区吾妻通 5-2-20

TEL：078-221-9565

FAX：078-221-9566

<http://www.jesusband.jp>



運動会「つなげよう みんなのちから」
3、4、5歳児みんなで大きな入道雲ができました。

1 泊施設長研修会（豊島にて）



散歩
「きれいな葉っぱを見つけたよ」

理事長に就任して

社会福祉法人・学校法人イエス団理事長

黒田 道郎



心配していた村山前理事長のご健康が限界となつて退任を申し出られたことにより、理事会の決定で8月より理事長職に就くことになりました。

5年前にイエス団理事の末席に加わった時のことを考えると、ありえない事態になっていることを痛感しています。前回の本イエス団報のリレー原稿で触れたばかりですが、教会の牧師としてのみ26年間を過ごしてきた者として、社会福祉法人・学校法人の見識は乏しく、また理事長の器ではないことを自分が最も知っています。さらに住んでいる所が四国・徳島である事、教会とそれ以外に四国教区の責任を果たさねばならない事など難しさもあります。

黒田の関係者は賀川先生のためになることなら無条件で協力しますが、この度のことは悩みに悩みぬきました。その結果、これは私が信じ信頼する神さまの選びだと信じて、お受けすることを決断いたしました。

以来約4ヶ月の間懸命に努めてきましたが、改めて歴代の理事長が重責を担われてきた歴史の重さを感じています。神戸市役所とコープ神戸への表敬訪問を皮切りに、くもちホームの起工式、馬見労務保育園の献館式など緊張感を味わい、聖浄保育園の職員会、大阪四貫島教会の礼拝奉仕の機会が与えられました。またリーダーシップ養成研修会の朝の礼拝や、就任直前に四国で実施された一泊施設長会議にも顔を出すことができました。まだ暗中模索を続けていますが、本部事務局や多くの方々が好意をもって支えてくださることに感謝しています。特に事務局スタッフが正しく賀川精神を受け継ぎ、各施設のために奮闘されている事がよくわかりました。また自施設の多忙な業務にもかかわらず、イエス団全体のために尽くされている多くの方々がいる事も深く知らされました。これらの方々とこれから一緒に仕事ができることは幸いだと感じています。

さて理事長就任の抱負など語れる状況ではありませんが、今心に示されている一端を申し述べます。一つは賀川精神と賀川先生を動かしたキリスト教信仰の再確認を、イエス団全体で行いたいと思います。すでにイエス団憲章を掲げ、ミッションステートメントを定めて歩んでいますが、日々の活動の中で自然に賀川精神がにじみ出ることを

みんなで目指したいと願います。現在の世の中は世界的規模で諸問題が噴出し、国内では特に大きな課題を前にして、解決の糸口さえ見えてこず混乱を深めています。社会福祉を取り巻く環境もますます厳しくなります。イエス団諸施設の現場の悲鳴が聞こえてきます。このいわば有事の時に、私たちの原点である賀川精神をしっかりと認識して、課題から逃げずに取り組みましょう。

二つめは、強力な指導力を持ってイエス団を引っ張った先達者たちの時代から世代交代が進み、今は信頼できる仲間と一緒に協力しながら歩む時代へと変わりつつあります。生前の賀川先生を知っている方が圧倒的に少なくなりました。私の世代が賀川先生のお姿を見、肉声を聞いた最後の世代だと思います。といっても8歳の記憶にすぎず、橋渡しの役割を担うことができるか自信はありませんが、精一杯努めます。併せてイエス団が一致団結して歩むために、組織の見直しやルール作りが必要です。今事務局が定款の改正や協力体制を築くための準備を着々と進めています。さらなるご協力を願いつつ、信頼関係がより深くそして確かなものになることを目指しましょう。

三つめのこととして一つ目と重複しますが、信仰面での充実をもっと深くていねいに取り組んでいく必要を感じます。牧師として歩んできた者として、賀川先生を動かし、またイエス団の各施設を動かすものは信仰だと確信しています。現場の困難さを熟知しているつもりですが、その上で信仰の面を大切にしたいのです。

最後に以上の思いを速やかに形にしていくため、理事長としてできるだけ早い機会に各施設をお訪ねしたいと願っています。保育や介護・養護、教育の現場に触れることから始まるわけで、よろしくご協力ください。



1泊施設長研修会
開会礼拝の奨励
小国清子先生
：日本基督教団
香川豊島教会牧師

天使虹の園の子ども達

イエス団東日本大震災救援対策本部

『クリスマスに添えて』

社会福祉法人・学校法人イエス団常務理事
イエス団東日本大震災救援対策本部長

平田 義

3月11日に起きました東日本大震災直後の3月15日に、「イエス団東日本大震災救援対策本部」が立ち上がり、これまで、様々な取り組みを行ってきました。詳細につきましては、活動報告書が各施設に送られていますので、すでにご覧いただいているかと思います。イエス団のホームページにもアップされていますので、まだお読みでない方は、是非ご一読ください。

本稿では、「イエスに倣って生きる」ことを宣言しているイエス団が、クリスマスを迎えるこの時期だからこそ、考えなければならないことについて記してみたいと思います。

マタイによる福音書2章16節～18節

さて、ヘロデは占星術の学者たちにだまされたと知って、大いに怒った。そして、人を送り、学者たちに確かめておいた時期に基づいて、ベツレヘムとその周辺一帯にいた二歳以下の男の子を、一人残らず殺させた。こうして、預言者エレミヤを通して言われていたことが実現した。

「ラマで声が聞こえた。激しく嘆き悲しむ声だ。ラケルは子どものことで泣き、慰めてもらおうともしない、子どもたちがもういないから。」

今年も、クリスマスの季節となりました。この時期になると、私たちはその年にあった出来事を振り返ります。今年は特に東日本大震災や台風12号などの自然災害が大きな出来事でありました。未曾有の被害をもたらした大津波は、想像を絶する破壊と犠牲者を生み出しました。また、福島第1原子力発電所の重大事故で放射能汚染が拡大し、故郷を離れることを余儀なくされ、今も見えない放射能に怯えながらの生活を強いられています。多くの人々が、愛する家族や友人を失い、住む家も奪われ、生活の基盤もなくし、深い嘆きと混乱の中で塗炭の苦しみをなめさせられている状況に置かれています。

これは、何も自然災害だけが要因ではなく、原発事故にみられるように、効率や経済を優先させてきた施策による人災によるものでもあります。そして、それは決して他人事ではなく、私たち自身の生活のあり方や、価値観が問われている事柄でもあります。

私たちの多くは、日本は「平和で安全な国」とあると信じて生きてきたと思います。しかし、こ

の度の福島第1原発の事故で、「安全」神話はふつとんでしまったといえるのではないのでしょうか。しかも、その「安全」の裏側には、電源3法交付金というお金によって、原子力リスクを貧しい農村に押し付けている事実があることも明らかになってきました。国民が平等に負うべき社会的リスクを、特定の、それも所得水準の低い地域に押し付けるために税金を使うやり方が、どんな災厄を当の地域にもたらすかを、今度の原発災害は如実に示したのではないのでしょうか。

この「安全」の裏側にある構図は、「平和」の裏側にある「沖縄の基地」の存在と同じ構図のように思われます。沖縄でも米軍再編交付金というものがあります。基地負担を積極的に行う自治体には交付金が支給され、基地の受け入れを拒否した自治体には交付金がカットされる。実際に、普天間基地の代替基地（新基地）の建設を拒否した辺野古のある名護市は、米軍再編交付金が停止されました。まさに「アメとムチ」の政策がまかり通っているのです。

「福島」はこれから数十年にわたって放射能のストレスと戦うことが強いられるのですが、「沖縄」はすでに六十年以上にわたり基地のストレスに耐えることを強いられてきたのです。中身は違うのですが、構造は同じだといえるでしょう。

「平和で安全な国」の中に、実はこのような差別が政策的に生み出されているのです。これで、本当の「平和」で「安全」であるといえるのでしょうか。この国の政治は平和の問題も安全の問題も「金」で解決するやり方で切り抜けてきました。この悪しき構造をクリスマスを迎える今、改めて考え、そのような構造を変えていく働きに参加する必要があると思います。それが、まさしくイエスに倣って生きることに通じるからであります。

冒頭の聖書の箇所は、クリスマスの喜びの裏側で、悲惨な出来事（ヘロデ王の幼児虐殺事件）があったことが記されています。イエスが生まれた二千年前の最初のクリスマスも、決して平和なクリスマスではなかったのです。しかし、こうした暗い出来事の中で、かすかではありますが、確かな希望も告げています。それは、どのようなヘロデの敵意も、暴力も、軍事力もイエスを見つけ出して殺すことはできなかったということであり、神はイエスを生かし、その生きざまを私たちに示す機会を与えられました。そのことによって、私たちは、嘆き苦しむような現実を目の当たりにしても、希望を失うことなく、イエスに倣って生きることが許されているのではないのでしょうか。

私たちは、どうしてもない閉塞感に苛まれるようなこの時代の中で、今一度、クリスマス＝イエスの誕生の意味を考え、真の意味での「平和」な社会を実現するために共に歩んでいきたいものです。

研修報告

新任職員研修

2011年3月24日(木)～25日(金)

於：六甲山 YMCA

2011年3月24日、25日に六甲山 YMCA にて一泊新任職員研修を行いました。雪がちらちら舞う六甲でしたが、寒さにも負けずに大勢の新任職員が参加し、交流、学びを深めました。奨励に日本基督教団神戸イエス団教会上内鏡子牧師、講師にシチズンシップ共育企画代表川中大輔先生、平田義常務理事、谷口浩美先生、田村三佳子先生を迎え、ワークショップ、キリスト教理解、イエス団理解(MS2009 理解、イエス団の歴史等)の大きく3つの柱を立て、1.「イエス団の理念を理解し、職員としての使命を考える。」2.「感じる、考える、気づく、伝える、聴く、分かち合う事の大切さを学ぶ。」3.「新しい職場に入っていく準備をする。」をテーマに学びの時を持ちました。

今年の初の試みは、新任職員の身近な存在としてフォローし、研修期間中の相談役にもなる「フェロー」として、3名のベテラン職員が参加したことでした。先輩職員のより身近な話を聞くことにより、新たな職場に入ることへの勇気や、まだ見えぬことへの期待を貰ったのではないのでしょうか。2日間を通し、今まで深く触れることがなかったキリスト教に触れ、イエス団という団体を理解し、自分というものを見つめ、知り、考え、分かち合うことの大切さに気付き、自分らしい「ミッションステートメント」を掲げることができたのではないかと思います。

最後に、私はいつもイエス団の研修で驚くことがあります。参加者の表情が初日と2日目が変わります。今回も初日は不安な顔が多く消極的な雰囲気が漂っていましたが、研修が終わりに近づくにつれ、一人ひとりの存在が際立ち、真っ直ぐ顔を上げ、イエス団の仲間になっていたのです。けれどもこれで終わりでなく、この研修によって掲げた使命をどれだけ活かすことができるのかは、施設の環境が大きく影響するでしょう。その為にも私達は研修を企画すると共に、自己研鑽をし続けなければならないと考えさせられた研修でもありました。

企画委員会 研修担当チーム
特別養護老人ホームガーデン天使 小川 真奈



フェローズの参加



K.J法によってM.S.2009を考える



参加者集合写真



辞令交付式

ブラッシュアップ研修

2011年6月16日(木)～17日(金)

於：六甲山YMCA

1.「今の自分を見つめ、これからの課題を探る」
2.「現場での体験を出し合い、仲間と共有する」3.
「イエス団で働くことの意味を理解し、深める」の
3つをテーマに、2011年6月16～17日六甲山YMCA
において研修会が開催されました。参加者は21名
でしたが、今年度の特徴は、参加者の経験年数が平
均約6年、それも年齢で言えば20～50歳台と、「ブ
ラッシュアップは入職後だいたい3～5年くらいの、
仕事にもそろそろ課題が出てきそうな職員が対象」
と我々研修担当チームが考えていた層とは少し違
い、経験も年齢も職種もバラバラの方々が集まりま
した。そんなバラバラな背景を持つ職員を対象に、
3つのテーマを達成することができるのだろうか？
と始まる前から心配はありましたが、そこはさ
すがイエス団の施設や雰囲気までもよく理解し
てくださっている講師のシチズンシップ共育企画
代表の川中大輔先生が、参加者の自己開示から最終
の個人のミッションステートメント公表まで、各自
の整理がきちんとできるように導いてくださいまし
た。

特に印象に残ったのは、残念ながら雨のためにで
きなかったファイアーの代わりに、暖炉の前で一人
ひとりがみんなに対して自分の様々な思いを語っ
てくれた時間でした。「あの人も自分と同じように
悩んでいるんだ。」「どこの職場も似たような問題が
あるんだなあ。」と、一人ひとりの発言に全員が耳
を傾け、気持ちを寄せた時間でした。

普段、他の施設の職員とは顔を合わすことがほと
んどありませんが、自分たちの仲間がたくさんいて、
いろんなことで悩んで、喜んで、そして同じ理念を
持つイエス団の施設で働いているのだ、というこ
とを再認識することができたとてもタイムリーで有
意義な研修であったのではないのでしょうか。そして、
ここでできた人の輪と新たな気持ちを、これからも
大切に持ち続けてほしいと心から願っています。

企画委員会 研修担当チーム
天隣乳児保育園園長 岡山 泰典



六甲YMCAの暖炉の前で



朝食を感謝して



参加者集合写真



研修の一コマ

リーダーシップ養成研修会

2011年9月1日(木)～3日(土)

於：関西セミナーハウス

法人全体研修初の2泊3日。これまでの参加者の「もっといろんな人と話したかった」「他の施設を直に感じてみたい」という声からうまれたものでした。

新任研修、ブラッシュアップ研修でお世話になった、シチズンシップ共育企画代表の川中大輔先生によるグループワークを中心に研修の機会を持つことができました。「リーダーシップ」とは一体何？参加者のほとんどが「私にはリーダーシップがない」「もっとリーダーシップが必要だ」と現場で悩んでいました。どんな時代においてもリーダーシップが求められ、本屋に行けば様々なリーダーシップ関係の本が並びます。しかし、ここで学んだリーダーシップは、「一人で何でもできて一人でみんなをグイグイ引っ張っていくような（スーパーマン的）リーダーではない。」リーダーが取り組むべき事は、相手を信頼し、周囲を巻き込みながら、全体の意識が高まっていくような関係性を創りあげていくことだということです。

2日目の施設見学では、いざ愛隣館へ。MS-2009が実際に現場でどのように展開されているのかを学んでもらう事が目的でした。見物客になりきってしまうのではなく、それぞれ自分たちの施設において課題だと感じていることを意識しながら、愛隣館でおこなわれている具体的な取り組みや方法、エッセンスを学ぶことを意識しました。つまり、自ら主体的に愛隣館の中身、本質を知ること。実はそれは愛隣館を通して自分達の施設を再確認することにつながります。

また今回の研修の中でも特に興味深いのが絵本の読み聞かせや、セッションとセッションの間で、みんなで歌う讃美歌。絵本や讃美歌たちは、単に繋ぎではなく、セッション同士に橋を架け、参加者が心地良く安心して渡っていけるような役割だったのではないかと思います。無事に今年度のリーダーシップ養成研修が終えられたことに感謝し、来年度も一人でも多くの仲間達が参加することを祈っております。

企画委員会 研修担当チーム

京都市南部障がい児・者地域生活支援センターあいりん

太田 正人



研修の一コマ



参加者とスタッフ集合写真



職員の案内により愛隣館を見学



重症心身障がい者通所事業シサム



歓談の時



1本の毛糸で繋がる 絆

研修を振り返って

この一年の研修をふり返って報告させていただきます。今年も、たくさんの方々との出会いがありました。それぞれに充実した時を過ごすことができ、感謝です。

新任研修会・ブラッシュアップ研修会・リーダーシップ養成研修会。これらの研修を通して感じることは、やはり私たちは同じ目標に向かって歩んでいる仲間であるということ。そしてMS2009の実践に向けて、施設、職種は違っても同じ思いをもってそれぞれに頑張っている仲間がここにいるということです。

1泊2日や2泊3日という限られた時間ですが、寝食を共にし、悩みや課題を共有するということ―「共に学び、共に考え、共に分かち合う」―ことの大切さを痛感しています。

本部主導型の研修から企画委員会研修チームとして役割を分担し、本部と共に話し合いを繰り返しながら組み立てていく研修へと移行して既に3年になりますが、いよいよイエス団としての研修体系を作り上げる時がきたことを実感しています。

研修スタッフ自身が今、学びながら皆様に何が提供できるのかを、「現場で必要なこと」、「現場を離れてこそ学べること」、「個々に学ぶもの」という観点から取り組んでいます。

どのような研修を提供すればそれぞれのスキルアップができるのか、モチベーションを高めることができるのか、そしてイエス団職員として喜びをもって働くことができるのか。

私自身、またスタッフ自身、まだまだ学ぶべきことがたくさんあり、皆でスキルアップをしながらの取り組みです。

今年はイエス団研修初の2泊3日のリーダーシップ養成研修がありました。2月には初のフォローアップセッションも予定されています。

今後も皆様のニーズに合わせた良い研修が提供できますよう、スタッフ一同願っております。

企画委員会 研修チーム委員長
甲子園二葉幼稚園園長 田村三佳子

1 泊施設長研修会

2011年7月29日(金)～30日(土)

於：豊島・坂出

1月の施設長会で次の研修会は四国で…。そんな話題があり、冗談かと思いつつ準備を少しずつ進めて参りました。7月29日(金)～30日(土)に香川県豊島と坂出にて1泊施設長研修会を行いました。遠方から大勢の皆さんの参加。ありがとうございました。賀川先生を始めとして多くの先輩方の思いや地域ニーズに応える形で、それぞれの施設が今ある姿に至っています。立地する状況や環境によって、抱えている課題が異なり、実際に来て見ていただくことで共有してもらえたのではないかと思います。豊島の産廃処理施設の見学も、ぜひ現実を見て感じていただきたいとのねらいから、各方面をお願いして実現いたしました。お一人々々が多くのことを感じられたことと思います。

特に香川県内の施設では、施設老朽化に伴う大きな問題を抱えています。「香川子ども子育て支援事業委員会」を中心にこれからの香川県でのイエス団事業を充実させるべく協議を進めているところです。どうぞお覚えいただき、ご支援をよろしくお願いします。

四国ブロック長

光の子保育園園長 黒田 信雄

1 泊施設長研修会を終えて

豊島の島内を1周していると、なぜか懐かしく感じたり、ゆったりとした気持ちになるのは私だけでしょうか。わたしの田舎の愛媛県伊予、または大好きな沖縄伊江島にも、どことなく同じ匂いがする。

そのような豊島で今回「1泊施設長研修会」を持つことが出来ました。研修内容は充実したもので、瞳保育所の子どもたちによる楽器演奏で出迎えられ、豊島神愛館では乳児の子どもたちの寝顔に癒され、豊島ナオミ荘において開会礼拝、藤崎盛清氏による講演、「豊島神愛館の現状と課題」をテーマに職員の笠井陽子氏によるお話、産廃見学等島内1周巡り。2日目は坂出育愛館を見学させて頂きました。

この中でも、私が感じた「豊島」を少しご紹介します。「福祉の島」、「ミルクの島」として呼ばれる豊島は、農業、漁業、石材業などの産業が盛んだった時代もありましたが、高齢化、過疎化が進み、人口減少に伴い産業は衰退方向に転じている現状があります。

1975年私たちが出したモノ（産業廃棄物）も含まれているかもしれないゴミが、儲かれば良いというような悪質業者や、不法と知りながら加担する排出企業、香川県行政の誤り、そして「ゴミ問題」について無関心であった私たち一人ひとりによって引き起こされた「豊島事件」があります。この事件を解決したのは言うまでも無く「島の住民」の方々による惜しまない努力と結束力、そして「この島が好きだ」「この豊かな島を後世に残したい」その心意気があらゆる力を

発揮し解決へと導かれたのかもしれませんが。愛すべき自然を壊すのも、豊かにするのも、同じ人間の業であるということが明解となった事件だったように感じます。神さまが創造された自然の偉大さと大切さを、様々な出来事（豊島事件、自然災害、人間による自然破壊など）により痛感させられています。

「わたしたちは、自然が大切にされる社会をつくりだす」

私たちイエス団職員は「ミッションステートメント 2009」の実践に向けて、子どもたち、利用者の方々と共に、自然を愛し、自然と共存できる社会を創造していきたいものです。

ぶどうの木保育園園長 木村 耕



産廃資料館



海に隣接する処理場



海から臨む処理場

光の子保育園公開保育研修会

2011年7月15日（金）

於：光の子保育園・鳴門賀川記念館

初めての公開保育。期待に胸ふくらませてバスが発しました。2つの大橋を渡り、いよいよ四国へ！

田園風景の中にたたずむ自然環境豊かな園舎、入口では笑顔で迎えてくださる先生方。初めての場所なのに懐かしささえ感じました。慌しい見学でご迷惑だったと思いますが、皆さん温かく迎えて対応して下さい、その姿に子ども達への日々のかかわり方が感じられるほどでした。方言も魅力的でした。

礼拝の様子を見学させて頂きましたが、年齢差のある子ども達が一緒に礼拝を守っている姿にびっくりしました。そして、お祈りやお話しが一人ひとりの心にまで届いている様子がその場にいる私達に伝わってきて、きっと日々の保育の中でも自然に神様への感謝と祈りが取り入れられているのだらうと思いました。保育士としてはもっともっと保育園で過ごす時間をとっていただきたかったと思いました。

その後、鳴門賀川記念館へ移動し研究討議が行われました。事前のアンケートを基にしたグループセッションでは、施設間を超えた、同じイエス団としての親交を深めることができました。各施設が悩みを感じているところは同じで、それぞれが試行錯誤しながら工夫を凝らした取り組みをしている様子を発表し合うことで、解決への新たな方法を見つけることができました。

今回、公開保育に参加させていただいて、私達はイエス団の職員としてつながっているということを改めて感じる事ができ、そして良き学びの時間を持つことができたと思います。皆様ありがとうございます。

天隣乳児保育園 野田 陽子 芳賀 祐子

イエス団内では初の試みとなる公開保育研修会に参加させて頂きました。「イエス団の保育」について考えるという案内を頂き、期待して出かけました。

時間短縮のため車内で資料を配布して下さいましたが、その資料の分厚さに驚きました。参加された全園の保育計画等が全て入れられた貴重な資料でした。

光の子保育園は大通りから少し中に入った静かな田園にある3階建ての園舎で石井教会と並んで建っていました。後の見学で、屋上のプールに水カマキリが泳いでいたと言えば、その環境の良さが分かります。

園舎に入ってまず興味を持ったのは、各部屋の壁に種々のマニュアルが貼られていた事。保護者の目にもつくと思いますが、そこには園の姿勢や思いが込められている事がよくわかったと思いました。

2歳児～5歳児まで一堂に会して行う朝の礼拝の様子を見学させて頂きました。大人数でしたが、一人の

保育士が行う素話に皆が熱心に耳を傾けているのが印象的でした。後で気づいたのですがその中に、職業体験の中学生も混じっており、その学生達も私語一つせず園児や職員に溶け込んでいた事も印象的でした。そんなところにも黒田先生の理念が浸透しているのだなと感じました。同じ使命を持って働く他の園を見学させて頂き大変よい勉強になりました。早速、我が園でも誕生会の導入に、職員が交代で素話をする事を取り入れました。今回は大変良い学びの機会を与えて下さり、ご準備頂いた光の子保育園の皆さんに深く感謝いたします。今後もこのような公開保育研修が他園でも2回3回と続くことを期待しております。

愛之園保育園 升崎 丈夫

イエス団の輪っ

「イエス団の輪っ」と題しまして、2回目のリレー形式での投稿。理事・評議員さんからおひと方、一般職員からおひと方ずつ寄稿していただきます。今回は黒田道郎理事長、太田正人さんからのご紹介で、理事で神戸 YMCA 総主事の水野雄二さんと、ガーデン天使の高橋成就さんです。

社会福祉法人イエス団

理事 水野 雄二（神戸 YMCA 総主事）

「賀川豊彦」という名前。私は昭和 28（1953）年生まれで、賀川先生（以降、敬称略）のご存命中には生まれていなかったわけですが、お目にかかった記憶はありません。

しかし、父が W.M. ヴォーリズ先生（以降、敬称略）の下、滋賀県の近江兄弟社の社員であり、また近江八幡 YMCA の主事であったことで、その名前は、父の本棚を飾る先生の書籍の存在と相まって、私には幼い頃から親しい名前でした。ご存知の通り、賀川とヴォーリズは深い親交があって、賀川は私の故郷・近江八幡にしばしばヴォーリズを訪ねています。また、近江八幡は賀川にとっては「農村伝道」の場であり、彼自身のワークの現場としても大切な地域でありました。実際、私の母も若い頃、教会などで何回も賀川の話聴きに行ったと話しておりました。私も長じて YMCA 主事となりましたが、奇しくも賀川の故郷「神戸」でその仕事に就くことになりました。

数年前、(株)一粒社ヴォーリズ建築事務所の芹野与幸さんが、古い LP レコードのデータを送って下さいました。これはコロンビアレコードから発売された「キリストに生きる～12 人の証人たち～」(昭和 38(1963)

年発売)という講演集で、その中で賀川豊彦が「幼な子のごとくに」と題して説教しています。キリスト教教育(保育)に携わる者に対して根幹的な精神を伝えようとする賀川の肉声はその音源には収められています。私も初めて賀川の力強い肉声を聴きました。「今は子どもにとっては良くない時代。イエス・キリストのように無邪気になって、赤ん坊の宗教に戻る必要があるんです！」少し甲高い熱を帯びた声でした。

私は現在、創立 125 周年を迎えた神戸 YMCA の総主事の職にあり、その運営責任を担っています。現在の社会情勢の中で、民間団体の運営を担うには様々な苦労があり、極めて速い変化の時代にあって、舵取りの責任の重さを日々、感じているところです。しかし、神戸 YMCA 125 周年の歴史を振り返ってみる時、大きな困難に直面し、存立の危機に出会ったことは数多くありました。日清・日露の会戦期、第 1 期会館建設後の財政難の時期、神戸空襲で会館を焼失した時。また、阪神淡路大震災やバブル経済崩壊もありました。そんな危機の時代の折々に、正に「神様の働き」があって、救いと導きに恵まれて 125 周年を迎えることができました。その「神様の働き」の一つに、賀川による YMCA 支援があったのです。戦前の神戸 YMCA が度々、財政困難に立ち至ったとき、賀川が現れて「死線を越えて」の印税を置いて行った、と私たちは伝説のように先輩から聞いたものです。まさに「神様の仕業」ではないでしょうか。

今年、私たちは未曾有の東日本大震災に見舞われました。神戸 YMCA もできる支援を断続的にはありますが継続しています。これは、まさしく関東大震災から受け継がれた賀川スピリットの継承でしょう。大正 12（1923）年の関東大震災の時、神戸 YMCA は賀川と相図りながら、救援活動を始めました。賀川を座長として、震災救援事業を開始。震災の翌日には慰問調査に出立させています。このような迅速な対応やその後の継続した救援支援活動は、その後の様々な災害救援ボランティアのルーツとなるものであり、阪神淡路大震災や今回の東日本大震災でも模範になったことでしょう。これもまた、神様が賀川を用いて為さった働きではないでしょうか。

私自身、神様の導きか、数年前からイエス団の理事として務めさせていただいていますが、様々な機会が与えられていることに感謝をしています。今後どのような働きができるかわかりませんが、導かれるままに歩んでいきたいと思っています。それがイエス団のお役にたつのかどうか、それは神のみぞ知ることかもしれません。次回は、理事会の重鎮、山口政紀理事にお願いいたします。



今回京都市南部障がい児・者地域生活支援センター「あいりん」の太田正人さんよりご指名をいただきました、高橋成就と申します。社会福祉を仕事として働き始めて17年程になります。



25才に学校を卒業して約1年京都の雑貨商で働いておりました。そこは海外からの民芸品やブランド服の生地卸しやホテル等の壁や床に張る大理石などを扱い販売等をしていました。しかし、オーナーや社員たちは大変善い人だったのですが、海外に安く、にもかかわらず精度のたかい労働力を求めるそのやり方が、どうにも好きになれず若かったためか後先考えずに辞めてしまいました。

そのあと学校の既卒者就職情報で職を探していました。何かの理由で学部の事務室へ行った時に学部の先生に会って福祉の仕事をお勧めしてもらいました。今思うとその事が実際に今の特養の仕事に就こうと思うきっかけでした。

私はもともと人に影響され易い性格なのですが、自分で既に納得出来てしまった事は殆ど変えることの出来ない性格でもあるため、それまで働いていた所を辞めるまでは、福祉の仕事など殆ど全く考えていなかった職業でした。

しかし、学部の先生が勧めてくれた時は、自分にとって大変意義のある仕事だと思いました。ぜひ老人ホームの仕事に就きたいと思いました。その理由は、学部の授業で将来に就きたい職業を各自が発表した時、私自身はまだ将来の就職に対して気持ちが曖昧だったため、自分が何と言ったかは覚えていないのです。しかし同期のある学生が発表して言った事、それまでは心の片隅で忘れかけて未消化となっていたその言葉がよみがえり、自分の実感となったためでした。彼がそこで言った言葉とは、「自分もいずれ年をとる。だから老人ホームで働いてお年寄りのお世話をさせてもらいたい。自分は老人ホームで働きたい。」と。

私はその時までは、人が年をとって老人となるのはあたり前と思い流していました。しかし、人のライフサイクルに関わり携わる事ができるお仕事なんて、なんて素晴らしいんだろう、と私の思いは時を経て変化していました。ちょうど私が職を探していたという境遇もあったと思いますが、すべては自覚の問題で、学生時代彼の言ったその言葉に共感できた私は、老人ホームで働きたいと思いました。その後、小川居先生の面接を受け雇用していただきました。そして現在まで社会福祉法人イエス団特別養護老人ホームガーデン天使で働かせていただいております。

最後に一言、介護保険法が平成9年制定し平成12年より施行されました。措置制度から契約の原則となり以前以上に個別処遇が社会で一般的になっていま

す。良い意味で人の意識も変わりつつあると思います。今後の介護現場において、個別のニーズをいろいろな専門的視点からみて実行し、入居されている方々の生活を支えつづけて行くことが大切な課題だと思う今日この頃です。

今回は本部事務局の真下謙さんを指名させていただきます。私は彼のお父さんである真下先生には大変お世話になりました。また謙さんのお兄さんとは、同じ年で、関東へ一緒に新島学園を受験しに行った事が懐かしい思い出です。真下謙さん、次回をよろしくお願いいたします。

施設紹介

天使虹の園

〒554-0021 大阪市此花区春日出北1-18-13

Tel (06) 6463-9784 FAX (06) 6462-1072

<http://www.ans.co.jp/n/tenshi/c2.html>

天使虹の園は、旧園名が天使保育園北分園といい、大阪市此花区にある0歳から2歳までの乳児保育園になります。2010年度に安心こども基金をいただいて新築建替えをし、園名もノアの方舟のくだりに因んで、天使虹の園と改称いたしました。

天使虹の園をはじめ、姉妹園である天使保育園・天使ベビーセンターのルーツは、1946年の「天使児童遊園」の開始まで遡ります。賀川豊彦・吉田源治郎のお二人の功績により此花公園内に土地を無償で借り受け、戦後の復興事業がスタートしました。その後、1964年には此花区役所と消防署の此花公園への移転にともない公園内の天使保育園が現在の地へ移動、その翌年、代替地として現在の地を大阪市から無償貸与されることになり、天使保育園北分園が建設されました。



当時の天使保育園北分園は、2～5歳児の定員60名で木造2階建ての建物でした。2階には職員寮も作り、小川秀一園長が徳島県から大阪に来た際に同行した保母たちが住んでいました。天使では、当時寮生活をした保母たちが現在も主任として活躍しています。

小川居園長の時は、仕事終わりに寮の電話がなると夜の交流のお誘いだったと聞いています。また、北分園の卒園児の方々も地域で活躍され、当時はヤギを飼っていたとか居園長が二階で暮らしていたとか、たくさんのエピソードを教えてください。現在は、そのお孫さんたちが園に通ってきており、保護者からは、私もこの園舎だった！などの声も聞かれていました。その後少子化の影響で定員を減らした後、低年齢児の保育ニーズに併せて0～2歳児までの45名定員となりました。（現在は建替えにあたって5名増定員。）

建替えにあたっては、ぶどうの木保育園、ガーデンエル・ロイの設計をされた有限会社地域施設建築研究所の松井氏に設計を依頼し、現在の長時間保育を考慮して、できるだけ大きな家のような安心できる居場所である事をコンセプトとして建てました。



木材をふんだんに使い、また乳児にはめずらしい食堂もあり、建替えを機に食器も陶器に変えました。



園庭も乳児のみという特性を活かし、ゆったり、ほっこり過ごせるように、また都会の中で自然を感じられるよう四季折々の花や実をつける木々を植え、森をイメージして作っています。また、遊んでいるだけで足腰の発達を促せるよう、あえて起伏を設けました。できるだけ地域に開かれた園を意識した設計のお陰で、ご近所のお年寄りの方々と園の柵ごしに子ども達が触れ合ったりしています。

保育の中では、子どもたちに神さまから愛される存在であることを伝え、安心してそこに居られるようにと思っています。五感に刺激を与える事ができる日常

をと、泥んこ遊びや自然物との触れ合いを大切にし、野菜を育てたり、戸外の散歩に出かけたり、また朝の登園時にはクラシック音楽をかけています。（これは、忙しい保護者にも癒しになればと思っています。）



また、共に生きるという事を大切にし、花の日には近隣へお礼をこめて花束を子どもたちが贈っています。



今回の建替えでお力添えいただいた各関係団体の方々、そして暖かく見守っていただく地域にみなさま、そして何より一連を支え、励ましてくださった神さまの技に深謝しつつ、これからも地域に根差した活動をしていければと思っています。



馬見労務保育園

奈良県北葛城郡広陵町平尾 5 4 6

TEL (0745) 55-1027 FAX (0745) 55-3922

<http://www.ans.co.jp/n/umamiroutou/>

馬見労務保育園は、設立当時の地名「馬見村」とミレーの絵画「晩鐘」から名付けられています。



園舎階段窓に取り付けられた「晩鐘」のステンドグラス

賀川豊彦主宰の「イエスの友会」の大和支部長だった堀江要次郎が、1931年6月12日に死去、堀江のもとにキリスト教信仰者として導きを受けた馬見村の吉田惣市郎はじめ上村長次郎、野村彦忠ら6名が堀江の遺徳を偲んで、未亡人堀江敏子とともに、その一周年記念の1932年6月12日、馬見村にわずか16建坪のわびしい園舎を建築、堀江敏子が園長となり6月15日から第1回馬見農繁託児所を開設したのが、本園の誕生です。



工事前の正面玄関

当時の託児所は、朝8時から夕方5時まで、6～7歳児を対象に昼食・おやつ付、参加費は1日米2合でした。

1932年秋、第2回馬見農繁託児所開設、1933年春、第3回馬見農繁託児所開設、1933年に園名がつけられ、9月1日より保母2名をおいて常設保育園となりました。

以来、本園が小学校に送り出した卒園児は現在3500名を超え、卒園児の子や孫世代が多く在籍しています。

この間、奈良県知事や奈良県保育会から優良保育園として表彰等、高い評価を得ています。

2010年夏より園舎改築工事を行い2011年4月より新園舎で保育を開始、同7月より新園庭工事等すべての工事を完了しています。



工事後の正面玄関

賀川豊彦の三愛精神「神を愛し、人を愛し、土を愛す」を園主題に、「イエス団憲章」を理念に、「ミッションステートメント 2009」を使命として、神様の愛を実践する保育園、地域に愛される保育園をめざしています。



新園舎玄関前広場



園の柿で干し柿作りに挑戦(5歳児)

設 立：1932年6月12日

敷 地：2170.86㎡

建延面積：園 舎 1546.39㎡

給食棟 385.65㎡

定 員：150名(2011年11月1日現在170名)

大阪ブロック

イエス団大集会実行委員会から J.B. フェローズへと名称が変わり、メンバーの入れ替わりもあり新旧メンバー7人で構成されました。大阪ブロックでは、施設が離れているという立地問題の中で、どんな活動ができるかを引き続き話し合いました。

施設名を知っていても「実際どんなことをしているのだろう?」「どんな職員がいるのだろう?」ということから、まずは他施設を身近に感じ、またそのことで各職員が大阪ブロックの施設のことを知り、意識し、共有していけるように、大阪ブロック通信の発行を今年度も引き続きブロックの中心活動にしようという年間計画を立てました。

発行は年3回、今年は第1号夏の特集として「どう過ごしているの?」、第2号クリスマス特集「どんな取り組みをしているの?」、第3号「名物職員などの特集」です。10月25日に発行した夏の特集では、各施設の特色がたくさん紹介され楽しいものとなりました。また施設の紹介だけでなく四貫島教会の黒田伝道師にも参加していただき、質問形式で分かりやすくキリスト教について説明してくれるコーナーもあり、より身近に感じられるようになっています。なかなか他施設や四国ブロックの方々との人的な交流を行うことは難しいですが、いろいろな仲間が同じ志しのもと各現場で実践しているということを、大阪ブロック通信を通して交われたらうれしく思います。

天使保育園 小椋 安子

京都ブロック

去る2011年10月22日(土)桃陵保育園分園2階ホールにて、「J.B. フェローズ京都ブロック交流イベント」を行ないました。2010年度より、京都ブロックには新たに「宇山光の子保育園」・「くずは光の子保育園」が加わりました。今年度のJ.B. フェローズ京都の取り組みとして、今回は①交流②顔の見える関係作り③他施設を知る、をテーマに、施設紹介や交流プログラムを行ないました。(参加者136名!)

①、②のテーマとしては、食事を食べながら前半・後半の2回に分けておこないました。

参加者全員6人のグループに分かれて、司会者がお題を出し、前半は、「嫌いな食べ物」や「最近ハマっていること」など、お互い打ち明け易い内容から始まり、「なぜこの仕事を選んだのか?」といった深い内容まで話し合うことができました。後半は、あるテーマについて、グループワークを約1時間おこないました。これはコンセンサスのためのワークで、正解はないので

すが、「お互いの意見を否定せず、多数決やじゃんけんもNG」の中、話し合いで物事を決めていくこと、お互いの意見を受け入れていく難しさや面白さを体験できる貴重な時間となりました。

③のテーマとしては、「キリスト教保育の実践」「面白い行事」「職員同士の交流の仕方」「給食の珍しいメニュー」「地域との交流(つながり)」について各施設から発表がありました。それぞれ寸劇や写真を使ったり等々様々な工夫が見られ、各施設の特徴をよく表していたと思います。

プログラム終わりに宇野京都ブロック長から「現在それぞれの施設でも困難な問題や課題が多くあると思うが、他施設との横のつながりを大切にしながら、互いに助け合い、励ましあい、解決していこう」といったお話がありました。実りある暖かい時間になったと感じました。

J.B. フェローズ京都として、ようやく第一歩としてこの交流会をおこなうことができました。さらにこれから、顔の見える職員同士になるような取り組みをおこなっていききたいと思っております。

障がい児・者ホームヘルプ事業「ゆうりん」
森 拓平

兵庫ブロック

- ☆ ブロック会議 … 5月、6月、9月の3回既に行いました。11月に4回目を開きます。
- ☆ 施設見学会(公開保育) … 9月・一麦(乳児クラス)、10月・天隣(栄養士・調理士向け)の2回行いました。特にこれには四国ブロックの各施設にもご案内をお送りし、実際に参加して下さいました!!これを機会に四国ブロックの皆様とも、より深いつながりを築いていきたいと考えています。
- ☆ 賀川記念館とのコラボ企画 … 東日本大震災復興支援関連で、Tシャツの制作及び宮古の作業所商品の販売に協力中です。
- ☆ 今後の予定 … 今年度内にあと1回、公開保育を予定しています(友愛にて)。
- ☆ また、職員親睦会を検討中です(具体的な日程等は未定)。

一麦保育園 小関 里美

編集後記

東日本大震災やそれに伴う福島原発事故により被災され、今もなお厳しい生活を強いられておられる方々を覚え、神様の励ましと慰めがありますようにお祈りをいたします。創設者「賀川豊彦」は、1909年12月24日、21歳の若さで自らをクリスマスプレゼントとして、神戸でセツルメント運動を始めました。12月24日はイエス団の創立記念日となっています。多くの方々に支えられ祈られて歴史を刻んできた創立記念日にイエス団報第14号を発行することができました。その歴史を鑑みながら、賀川問題も含んだ歴史や将来に向けての取り組みなどを取り上げながら、今後も取り組んでいきたいと思います。